

K O Σ M O Σ

Vol. 12, No. 2 (No.38)1977. 11. 5

ラマ教寺院の図書室

菅 沼 晃

9月4日から約2週間にわたって、金岡秀友教授に同行して、インドのジャム・カシュミール州のラダックに入り、ラマ教寺院の実態を調査する機会を得た。

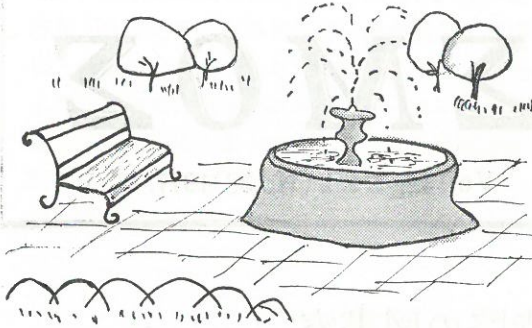
シュリナガルを発って、ゾジ峠・ナミカ峠・ファトゥ峠などの3500m～4000m級の峠をこえ、ラダックの首都レー（海拔3505m）に入ると、ここはチョルテンとよばれる塔が林立するラマ教の世界である。私たちは限られた日数ではあったが、レーの町の周辺にあるサンカル・シェイ・ティクセー・ヘミス・アルチなどのゴンパ（僧院）を見ることができた。ラマ僧たちの日常会話はラダッキー語といわれるチベット語系の言葉によって行なわれているが、かれらは古典チベット語にも実に堪能であった。ラダッキー語をほとんど解さない私たちが、チベット語經典の言葉をつづり合せてかれらに話しかけると、うれしいことに、これがよく通じた。私たちが同じ仏教徒であり、金岡教授が日本の大学のチベット語の教授であることを知ると、かれらは非常によろこび、秘蔵の經典のいく巻かを惜しげもなく私たちに贈ってくれた老ラマもいた。

一般にラマ僧たちのチベット語・チベット語訳經典についての造詣はきわめて深い。7・8歳の沙弥でさえも、古典チベット語の經文をよく読み、しっかりしたチベット文字を書く。これは、ラマ寺院において、伝統的にチベット語による徹底した教育が行なわれてきたためであろう。このチベット語教育の最大のより所となっているのが、チベット語訳大蔵經である。ラマ寺院には必ず一定量の大蔵經が所蔵されており、特別の經蔵をもつ寺もあるが、本堂の一隅に段をもうけて木版刷りの經典を収めているところが多い。ラマ教寺院はそのまま一つの図書室であるといってよい。しかも版木をもつところも少くないから、ラマ寺院は図書室であると同時に印刷所でもある。ラマ僧の教育水準がきわめて高いことの秘密の一つは、ここにあるといってよいであろう。

(文学部 学部長)

| | |
|--------------|---|
| 巻頭言 | 1 |
| ぶらざでりぶろ | 2 |
| 視聴覚室より | 4 |
| 本学に学んだ人々⑨ | 5 |
| 工学部分館より | 6 |
| 参考図書解題 | 6 |
| 投書から | 7 |
| 日誌(52年6～10月) | 8 |

ふらざでりぶろ



マイクロ資料とは

文献資料を写真フィルムに縮小撮影したもので次のような3種類のものがある。

A. ロール・フィルム——普通のカメラに使用されているフィルムのような長巻のもの。一般には35mmフィルムを使用し、1コマに2頁を写しこむと、1巻30.5mの中に実に約2500頁を納めることができる。通常マイクロ・フィルムと呼んでいるのはこのロール・フィルムのことである。

B. マイクロ・フィッシュ——カード状のフィルム。資料を探するときロールでは巻きあげねばならない不便さがある。フィッシュはこの点を改良したもの。

C. アパーチュア・カード——パンチ・カードの一部に窓を明け、そこにマイクロ・フィルムの一コマをはりつけたもの。

長所：保存スペースの節約、貴重な原本をいためることなく広く頒布可能、長期保存可能。

短所：いちいちリーダーやプリンターにかけなければならない。注意しなければ、傷や、指紋が

—マイクロリーダープリンター

白山本館に設置；

その利用と資料紹介—

つきやすい。まだ普通紙には複写できない。

マイクロリーダープリンター利用について

図書館では、閲覧利用者に対するマイクロフィルムサービスの一環として、エレファクスPRESSリーダープリンター(岩崎通信機)を設置しました。当分の間、下記の要領で利用して下さい。

設置場所 書庫6層。

利用時間 個人の1回の利用は3時間以内

サイズ A4・B4以内。

料金 A4 1枚につき20円。

B4 1枚につき25円。

1. プリンターの利用資格者は、本学教職員、学生、校友、または特に館長の許可を受けた者に限る。
2. 資料は原則として、本学所蔵のものに限る。
3. プリントは複写申込用紙に必要事項を記入し料金を経理課に納入し、領収書と引換に現物を受領する。
4. 機械操作中にインクの濃淡、汚れの発見等、異常を感じた時は直ちに係員まで申し出て下さい。
5. プリントした文献に関し、著作権上の責任は図書館では負いません。

(その他、マイクロプリンターについて分からないことがありましたら係まで申し出て下さい。)

「洒竹文庫」のマイクロフィッシュについて

(911.308:S 1001シート)

大野 洒竹(しゃちく)(本名、豊太。1872—1913)は熊本県に生まれ、東京帝大医学部を卒業して日本橋に皮膚科病院を開業した。その激務のかたわら俳書蒐集につとめ、博文館にすすめて『俳諧文庫』24編を発行させ、みずからもそのうちの多くの編の編集をした。大正2年、42歳の壮年にして世を去った。残された俳書約4000部は沼波 瓊音(ぬなみけいおん、本名、武夫。1877—

1927東京帝大国文科卒、一高教授、俳人)の尽力で、「洒竹文庫」の名を永久に保存する約束のもとに、東京帝大国文研究室に寄贈された。そのうち大正12年の関東大震災のため、惜しくも4000部のうち約1000部を失った。これが今日、東京大学総合図書館に所蔵される「洒竹文庫」である。

同図書館にはこの他に「竹冷文庫」1450部、「知十文庫」450部、その他500部の俳書があり、重複しているものを差引いても「洒竹文庫」とあわせて約5000部となる。西の天理大学図書館「綿屋文庫」と共に俳書収蔵の東西の双璧をなしている。

この「洒竹文庫」のはほぼ全部2612部のマイクロフィッシュ化が完了したのが昭和50年である。従来は東大に足を運び、閲覧の申込みをし、次の週の指定された曜日に再び東大へ足を運んで閲覧させてもらったのであるが、このマイクロフィッシュの完成により、俳諧研究者は閲覧希望の俳書を即座にマイクロリーダーにかけて読むことができ、さらにこのリーダーに連動しているプリンターによって、全冊でも、必要ページだけでも直ちにコピーすることができるのである。俳諧研究という分野は大量の資料を漁らなければならないが、この機械化によって時間と労力の節約ができることはありがたいことである。

雄松堂書店から発売されているこのマイクロフィッシュ2612点7247枚総価格2,681,390円を、わが東洋大学図書館も早急に購入すべきであるが、予算のつごうなのであろうか、まだ第1次分394点を購入しただけであるのは甚だ残念である。当局の善処を要望する。稀覯書のたぐいは、1冊で数百万円もする。3000部の古俳書がわずか200万円、しかも原形の姿で見られるのは——研究はこれで充分できる——安いものである。

(短期大学教授 村松友次)

江戸文学総瞰 (918.8:E 90リール)

大東急記念文庫は、昭和24年、財団法人として発足、目黒区上目黒の久米民之助氏邸を譲り受け、昭和30年3月に閉館されたが、昭和35年4月、世田谷区上野毛に五島美術館が設立されたのに伴い、文庫もこれに併設され現在の地(上野毛)に移った。この文庫の蔵書は、旧久原文庫と井上文庫の蔵書を譲り受けたものが大半を占め、殊に久原文庫からの蔵書は1万7千余点で、奈良時代以来の古写本、名家自筆本、書幅、古版本、赤本・黒本・黄表紙等の江戸文学書等がある。中でも江戸時代の文学書は俳書類を除き室町時代以来の「御伽草子」類を含めて、膨大な数に及び近世文学を志す者にとっては一大宝庫となっている。

さて、この大東急記念文庫所蔵の江戸文学書のマイクロフィルムは、文学研究に役立たせると同時に、文化遺産の保存につとめようとしたものであり、収められた作品の数は次の如くである。

○ 御伽草子 25 ○ 仮名草子 13

| | | | |
|--------|-----|---------|-----|
| ○ 浮世草子 | 15 | ○ 読本 | 5 |
| ○ 滑稽本 | 13 | ○ 人情本 | 3 |
| ○ 赤本 | 30 | ○ 黒本・青本 | 100 |
| ○ 黄表紙 | 250 | ○ 合巻本 | 39 |
| ○ 咄本 | 80 | ○ 幸若舞 | 6 |
| ○ 申楽 | 2 | ○ 古浄瑠璃 | 45 |
| ○ 義太夫節 | 87 | ○ 狂言本 | 10 |
| ○ 地誌 | 10 | ○ 遊里 | 5 |

以上のように江戸時代中期以降の草双紙類を中心として多数の作品が収められ、近世小説史、演劇史の研究には恰好の資料といえることができる。同時に版本の書誌的研究にも大いに役立つことは疑いの余地がない。

国文学の中で、最も研究が遅れている分野の一つは江戸文学である。それは、他の分野に比べ、より多くの資料・作品を調査して初めてわずかの成果が上げられるというのが実情であるからである。この時期に出版された書物は膨大な数に及びしかも殆どが小冊子であるが故に散逸したものも少なくなく、現存しても保存の悪いものが多数を占める。このようなことも研究の遅れの要因になっている。それらの意味で多数の美本がマイクロフィルムに収められたことは、非常に有意義でその利用価値は測り知れない程である。

(国文学科助手 中山尚夫)

Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature. (M083:G:2 375リール)

このマイクロフィルム資料は、経済学文献の世界的な宝庫といわれるゴールドスミス図書館(ロンドン大学)とクレス図書館(ハーバード大学)両図書館の所蔵する経済学文献のマイクロフィルムで、15世紀から18世紀に出版されたスラブ語を除くヨーロッパ語のほとんどすべての重要文献が含まれている。ゴールドスミス図書館は1903年に、クレス図書館は1936年に、共に経済学者として、又蒐集家として有名なH. S. フォクスウェル(Herbert Somerton Foxwell, 1849—1936)のコレクションが基礎となって設立されている。内容は社会、政治、産業等幅広い内容を含み、経済学文献というより、社会科学文献といった方が正確である。社会経済思想史の研究には極めて重要な文献を提供している。このマイクロフィルムに

は特徴として多数のパンフレットを含みますが、パンフレットは個々に見ると重要でなくとも、コレクションとなると貴重な資料となり、社会経済事情を研究する上で重要な資料となります。又パンフレット類は入手しがたい資料ですが、このマイクロフィルム版が可能にしています。この両図書館のマイクロフィルム計画は現在進行中で、今回当図書館に所蔵されたのは15世紀から1800年までに出版された図書約30,000タイトルの第一期4ヶ年計画の第1年度分です。このマイクロフィルム版には「手引書」(A Consolidate Guide of the Microfilm Collection, 2 vols, Research Pub., 1977) が付いており、年代、主題、アルファベット順に配列されており目録の役目をはたしている。(K)

本館所蔵の主なマイクロ資料

太陽 (第1—34巻) (M051.3:T 107リール)

大神宮故事類纂 (M175.8:J:2 94リール)
 営業報告書集成 (M335.021:E 192リール)
 " (M335.021:E:2 110リール)
 稿本三井家史料 (M335.28:K-2 26リール)
 綿業経済資料 (M586.221:M 66リール)
 国語学資料集成 (M801.1:K-3 54リール)
 あさちか露 (M913.41:A-2 1リール)
 Daily Herald (1919年—1938年)
 (M073.3:D 109リール)
 Economist (Vol.1—165)
 (M330.53:E:2 133リール)
 Press cuttings on Asian affairs (アジアの動向)
 (M332.2:A:7 398リール)
 自由灯 明治17年5月—19年1月
 灯 明治19年1月—20年2月
 めざまし新聞 明治20年4月—21年7月
 朝日新聞 明治21年7月—昭和23年12月
 (計469リール)

視聴覚室からのお知らせ

★白山祭特別プログラムの紹介

さて白山祭に向けて、当室の恒例プログラムが次のように決まりました。多数のご参加をお待ちしております。

◎11月18日(金)～英語を学ぶ諸君へ～

a.m. 10:00～12:00 映画：合衆国政府が製作した英語教育用フィルム。(English)

- Teaching English Pronunciation
- Teaching English Conversation
- Teaching English Speech
- Growth of Language—American English

p.m. 13:00～14:00 講演テープ

国弘正雄 「英語の素顔」

p.m. 14:00～15:30 映画：イギリスを訪ねたカラー・フィルム

- Can You Speak English (Japanese)
- Youth Comes to Britain (English)
- Ten Days in Britain (Japanese)

◎11月19日(土)～登山を志す諸君へ～

a.m. 10:00～p.m. 12:30 カラー映画

- キャンプの基礎
- 山から悲劇をなくそう—冬富士から穂高へ
- ロック・クライミング
- 氷雪技術
- 山岳遭難者救出法

★録音コンテスト、8mm映画・スライド製作コンテスト開催のお知らせ

～白山祭に向けて、個人参加作品を視聴覚室で公開しませんか～

受付期間：11月1日～15日

公開期日：11月17日(木) p.m. 14:00～17:00

応募要領：録音部門は生の音・録音技術による変形音・効果音・ディスクジョッキーなど。(音楽の生演奏は除く)

8mm映画・スライド部門は大学生活・教育・研究活動に関するもので自作に限ります。

○優秀作品には記念品を差し上げます。詳しくは視聴覚室までお問い合わせ下さい。

《本学に学んだ人々》—⑨—

口承文芸学会会長 関 敬 吾

＜関先生は昭和52年度の柳田国男賞を授賞されました。以下の文章は、関先生の談話を編集委員会の責任でまとめたものです。＞

私は文化学科の出身です。勝 承夫(元理事長)と同級です。暁鳥 敏(仏教学者)の息子の雄夫もいました。彼はハワイのお寺に行きました。私がハワイに行った時、探したのですが亡くなっていました。

当時、教授には、得能 文、出 隆、和辻哲郎といった人がおりました。そのころは、ドイツの西南学派の哲学が盛んな時代で、文化学科は、中国やインドなどの東洋哲学に相応するものとして、西洋哲学のために設立されたと聞いています。しかし、その目的はジャーナリストを育成することでした。学者タイプは割と少なかった。

震災で東大の図書館が焼け、あちこちから沢山の本を寄贈されたのですが、その本を整理するために、卒業と同時に、私は東大の図書館に入りました。姉崎正治さん(宗教学者)が館長でした。

柳田国男先生の所に行き出したのは、昭和8・9年位からです。そこで山村調査をやったのです。さらに服部奉公会からお金をもらって、昔話の調査をやりだしたのです。昔話だけでなく、農村生活の社会調査の方もやらねば、昔話のことはわからないから、両方やったり、ひところは昔話をやめていたこともありました。

すでに農村調査をやっていたので、戦争後CIE(占領軍民間情報教育局)から頼みに来て、6年位農村調査をやりました。CIEでは本学教授になった鈴木栄太郎、小山隆、そのほか喜多野清一、竹内利美と一緒にした。農地改革、漁村の改革、林業、家族制度の問題などを下調べしたわけです。

その頃農村を回って、非常に荒廃しているわけです。再びここで昔話を聞けなだらうと見当をつけ、これが最後だと思って、昔話を6冊にまとめてしまったわけです。12・3年したらうんと探

し出してきましたね。私はあの時2万ほど集め、そこから昔話でないものを除いて8500ほど収録したのです。今は少なく見ても5万ほどありますね。しかし昔話も語らなければ、だんだん記憶がなくなって、ますます簡単な梗概だけになってきますから研究の仕方を変えなければなりません。

どうして昔話がブームになったかわからないのですが、戦争と関係があるのは間違いないと思います。日本ではじめて昔話を集めだしたのは文部省で、日露戦争の直後です。通俗教育のために、各県に指令して集めたのです。ドイツでグリムが本を出したのもナポレオンに蹂躪されている時です。ナポレオンはロシアに敗けて帰りにライプチヒで連合軍にやられたのですが、グリムの本の序文が書かれたのがそのちょうど一年前の同じ日です。ナポレオンに蹂躪されて、国民の志気を鼓舞しなければいけないということがあったわけですね。

日本では戦争中に出した昔話の本が予想以上に売ったのですよ。もとは500冊出れば良い方で、私達はほとんど自費出版でした。そのころは紙がないから、頭をさげて、少しでも多くしてくれるように頼みに行くわけです。

ちょうど私が13巻の本を編集したのですが、最初3000部、その次が5000部。それが慰問袋に入って送られたのです。そんな昔話というものは外面から見れば、戦争の遂行に必要なのですが、それが要求があって出したわけです。そんな事情はこちらは知らないで、戦後になって知ったわけです。小さい本で、県単位にして編集しましたから、自分の郷里の話のところを送るわけですね。そして、それを読んで、戦地でのいわば心の支えにしたのですね。

〔著作目録〕

- 日本昔話集成 角川書店 (388:S K:3)
日本の昔ばなし 岩波書店 (388.1:S K)
民話 岩波新書 (388:S K)
昔話と笑話 岩崎美術社 (380.8:M:1-8)
日本民俗資料事典(編)第一法規 (380.3:N-2)
民俗学方法論 (訳) 岩波文庫 (381:K K)
昔話の比較研究 (訳) 岩崎美術社
(380.8:M:1-40)

工学部分館「1976年版雑誌所蔵目録」

この春、分館では「1976年版雑誌所蔵目録」を作成した。これは当分館で所蔵している雑誌の総合リストである。雑誌の所蔵リストは、図書館サービスのために必需のものであり、特に工学部においては、その必要性は非常に高いものである。

昭和48年秋、分館運営委員会において、雑誌目録作成の要請を受け、作成準備にとりかかった。そして、翌49年4月1日「1973年版雑誌所蔵目録」ができあがった。しかし、短期間作成のために雑誌表示、欠号表示など見落としが目立った。そこで、改訂新版を作成しなければならないという、自負の念から「1973年版雑誌所蔵目録」を基礎にして、「1976年版雑誌所蔵目録」ができあがったのである。部数は、印刷工程に手違いがあり、180部と少ないため学生諸君には配布するこ

とができないので、各研究室・閲覧室カウンター・書庫に備えてある。

この目録の収録範囲は、逐次刊行物のうち年鑑白書・統計書の類を除く雑誌、和文篇（536種）露文篇（13種）欧文篇（575種）より成る。そして、雑誌名、所在、請求記号、出版社、出版地、刊行回数、所蔵事項、欠号の順に表示がしてある。これらの雑誌の大部分は、分館一階の書庫にあるが、最新号は閲覧室の雑誌ケースに並んでいる。また、特に表示してあるものは、それぞれの研究室にあり、さらに〔建築〕とあるものは、建築学科にあることを示す。

粗末な作りではあるが、分館員全員の手作りにより完成したものである。学問研究のために役立てて欲しいと思う。（分館H記）

参考図書解題

一本 館一

日本農業年鑑 1977 (610.59:N-2)

はじめに

高度経済成長期以降の、20年たらずの間における、日本農業の変遷は、全く顕著なものがある。他部門経済の高度成長に比べられる、農業の成長ではなくて、農業内部の攪乱がそうなのであって、これは、世界の多くの農学者によっても、注目されている。ここで、取扱っている期間は、原則として、昭和50年9月頃から、51年8月頃迄の一年間、または、この期間に、年度末を迎えるものの一年間で、資料は、50年度の決定資料を、主として使用している。

本書は、毎年、特集を組むことが特徴となっており、今回は、第一特集に「日本農業の担い手」第二特集に「機械化稲作の現状と問題点」をとりあげている。第一特集では、新規学卒の農業就業者が、1万人を割る事態のなかで、将来の日本農業の担い手の問題が、クローズ・アップされてお

り、農業従事者の実態、若い担い手の動向を紹介し、担い手育成の条件と方策をさぐっている。

第二特集では、田植機、刈取機の開発・普及により、稲作の機械化一貫体系は、ほぼ完成したとはいえ、この技術体系の内容と普及状況、技術上・経営上の問題を解説し、あわせて、生産組織の対応の姿を明かにしている。

表紙裏には「世界の漁業と魚介類たんばく摂取」と「日本農業の若い担い手」を図解している。

又、巻頭では、変貌する「農業経営」をとりあげている。ここでは、①兼業化の進行状況、②小規模層では、手間のかからない、稲作に単純化し、大規模層では、畜産、園芸などや稲作に専門化するという傾向、③増大する上層農家のシェアや、上層農家で進む農業経営規模拡大、④農業生産力の格差拡大、⑤減少する若い担い手、⑥優位に立つ自立農家、⑦農業生産の組織化など現状を図解している。

なお、資料編では、国民のたん白質食料の安定確保について「要約」を、及び、農林関係主要図書目録等をも収録している。

(日本農業年鑑刊行会編 昭和51年11月)

(社団法人 家の光協会発行)

科学技術文献速報(抄録索引誌)(P503:K-3)

物理・応用物理編, 電気工学編, 土木・建築工学編, 化学・化学工業編→外国化学・化学工業編, 金属工学・鉱山工学・地球の科学編, 工学一般・機械工学編, 以上分館所蔵

世界の膨大な量の科学技術情報が日本語で書かれている唯一の抄録索引誌である。抄録対象資料は国外5200種, 国内2600種の逐次刊行物のほか, 米国政府レポートを主とする技術レポート類, 一般に入手困難な会議資料など広範囲にわたる。また, 収録する記事も基礎的な研究結果にとどまらず, 応用技術の報告や紹介の記事, 解説的文章にいたるまで幅広く対象としている。

抄録の作成には, 全国の大学・研究機関などの専門家約4000名から成る協力ネットワークが生まれ内容の適正を期している。抄録記事の掲載は, JICST 独自の分類体系により編成されている。

また, 毎月末に「ことば」から記事を検索できるキーワード索引がついており, 分類とは異った多面的検索ができる。さらに, 文献速報の年間索引は, ①主題索引(「JICSTシソーラス」^{注1}に基づく「ディスクリプタ」^{注2}を見出しとすることば) ②著者索引, ③収録資料リスト, から成っており適及検索^{注3}に役立つ。これら収録された記事の原報はJICSTに保管されているので複写依頼もできる。また, 翻訳協会者組織と内部校閲体制により翻訳依頼もできる。文献速報の編成には, 大型計算機と漢字プリンターを組み合わせたシステムが使われているので, 速くそして信頼できる情報が, 我々の手許に届くのである。

注1: 文献速報が分類項目をたよりに検索できるのに対し, 概念をことばで表わし, それを手がかりにして文献を検索する, そのことばを統制している表のことである。

注2: 内容を端的に表わす語句で指示的抄録の役割を果たしている。

注3: 新規に実験計画を立てる場合, 特定のテーマについて過去にさかのぼって文献を調査する。これらの利用方法については, 次号で掲載する。(日本科学技術情報センター発行)

玉川新百科(全10巻)

(403.3:T)

本書は, さきに刊行された玉川百科大辞典(全31巻)のうちの理科篇を改訂し, 新装版としたものである。構成は第1巻. 数学, 以下2/3. 物理, 4/5. 化学, 6. 天文・気象, 7. 地球, 海洋, 地質, 8. 生物学, 9. 動物, 10. 植物となっていて, 自然科学を各部門別体系にしたがって編成し, 各々の部門は学問体系にそって組み立てられている。カラー写真を含め図版もふんだんにつかわれていることとも合せて, ひじょうに利用しやすい編集になっている。

内容をみると, 例えば第7巻の海洋の項では, 第4章で海洋の利用と開発をあつかい, 第1節で海の資源, 第2節で海洋開発などとなっていて, 今日的課題もわかりやすく解説されている。各巻の巻末には, よりくわしく勉強したい人のために簡単な解題を付した基本文献目録を掲載している。教養課程で一般教養科目を履習中の学生には, ひじょうに便利な事典である。

(誠文堂新光社)

投書箱から

1) 大学院閲覧室内点燈不良の蛍光灯多数有り, 点検修理をお願いします。(大学院生)

係より: 10月14日, 係の者が大学院閲覧室を総点検し, 不良蛍光灯を取り替えました。今後各閲覧室を定期的に点検し, 利用者に不便をかけないようにいたします。

2) 文献を写すためにタイプライターを図書館に持込むことはできませんでしょうか。複写機を使うには不経済であり, 手書では能率がわるい。いちいち館外貸出をしたのでは時間的に無駄である。なんとかお考え願えないでしょうか。

(社会学部応用社会心理学専攻生)

係より: 当館の閲覧座席数は1000席あります。この座席数は大学設置基準の在籍学生数の5%になります。閲覧室の一角にタイプライター使用可能な部屋を設け, 他の利用者に迷惑にならないよ

うに閲覧室を工事したりすると閲覧席数の減少になり、大学設置基準を割ることになる。他に書庫内なども考えてみたが書庫は一杯で早急に書庫の増・改築しなければならない状態にある。以上のような理由で図書館内にタイプライターの使用できる部屋を設けることは難かしい。今後図書館を新・増築する際に、あなたの希望が取り入れられるように努力していく。

日 誌 (52年6月15日～10月15日)

- 6月15日 工学部分館連絡会
- 16日 レファレンス分科会 (於立正大学図書館, 河村参加)
- 17日 学内事情により夜間閉館
- 18日 書誌学分科会 (於本学図書館, 山内, 村田参加)
- 21日 研修分科会 (於国立音楽大学図書館, 神林, 飯山, 藤井参加)
- 22日 白山連絡会
- 23日 視聴覚室企画, 映写会 (於第3閲覧室 上映作品「母」ゴーリキ原作, 「北海道の自然」)
- 24日 分類分科会 (於工学院大学図書館, 日野参加)
逐次刊行物分科会 (於大東文化大学図書館, 栗沢, 中川参加)
- 7月7日 学習院大学教授児玉久雄氏見学のため来館
- 9日～12日 研修分科会 (於山梨県清里, 神林, 飯山, 平出参加)
- 11日 白山連絡会
- 15日 仏教図書館協会 (於高野山大学図書館, 池田参加)
逐次刊行物分科会 (於創価大学図書館, 栗沢, 中川参加)
- 16日 書誌学分科会 (於本学図書館, 山内, 村田参加)
- 19日 人事異動 白山本館植田泰子, 朝霞分

- 館勤務, 教学課小笠原玲子図書課配属
- 21日～23日 私立大学図書館協会総大会 (於東海大学, 山内, 小島, 鹿島参加)
- 25日 分類分科会 (於亜細亜大学図書館, 日野参加)
工学部分館所蔵雑誌目録完成配布。
- 28日～30日 短期大学図書館司書実務研修会 (於塩原, 小谷, 黒崎参加)
- 8月24日～26日 逐次刊行物分科会 (於新潟県六日町, 栗沢参加)
- 9月2日 白山本館, 館内事情のため休館
- 11日 図書館館内研修 (於第2会議室, 白山, 川越, 朝霞三館員参加)
- 19日 台風11号の影響により, 3時(川越は4時)以降閉館
- 20日 分類分科会 (於武蔵工業大学図書館, 日野参加)
- 21日 研修分科会 (於東京女子大学短期大学図書館, 神林, 飯山参加)
- 27日 白山連絡会
- 28日～30日 全国図書館大会 (於大阪, 京都, 島田, 岩田, 河田, 遠藤参加)
- 30日 逐次刊行物分科会 (於明治学院大学図書館, 栗沢, 中川参加)
視聴覚室企画, 映写会 (於第3閲覧室 上映作品「戦艦ポチョムキン」, 「彫る一棟方志功の世界」)
- 10月3日～8日 図書館新人研修
- 12日 神奈川大学図書館員4名見学のため来館
- 15日 父兄会神奈川支部見学のため来館

~~~~~

訂正 前号 (Vol. 12, No. 1) の記事を次のように訂正します。

訂正箇所

- |      |           |              |
|------|-----------|--------------|
| P. 4 | 上から3行目    | 校友会会長を前校友会会長 |
| P. 5 | 右側下から10行目 | 10冊を14冊      |
| P. 8 | 左側上から10行目 | 武蔵野大学を武蔵大学   |